

中部日本ニュース

有P

34.2.20

No. 266

今号より ワイド

高野一〇一

高野一〇一

1. 春をよぶ雪ざらし

—新潟

深い雪にうずもれている新潟県魚沼地方に春を呼ぶ越後ちみひの「雪ざらし」が始まりました。越後ちみひは、一月近くかかって手機で織られますが、更に独特の光沢をもたせるため雪の上に丹念にさらされるのです。上越の山々を背景に繰りひろげられる美しい雪ざらし風景は、春を前にして雪国の話題を集めています。

2. よみがえる「紀元節」

—奈良・東京

二月十一日橿原神宮では奉祝祭と名づけた紀元節復活デモンストレーションが行われ、二万人の人出で埋まりました。午後からは建国おどりをはじめ、仮装行列が町をわり歩きました。同じ日、東京では復活に反対する三笠宮邸に右翼の一回が押しかけ氣勢をあげるなど大変な紀元節騒動でした。

3. 週間トピックス

A ジャンプに競う

—青森

二月十三日から大鰐スキー場で開かれた今年の全日本スキージャンプ選手権大会は、第三日に純ジャンプ競技を迎えて大会気分も最高潮になりました。快晴零下七度という好条件に恵まれたこの日、吉沢、菊地、佐藤、江連ら国際クラスの選手が勢揃いして豪快なホームを競っていました。息づまる接戦の末、一、二回とも八十三米をとんだ佐藤選手が不敗を誇る吉沢選手を破って初優勝をとげました。

B

おめでどうチエミちゃん

—東京

ジャズ歌手の江利チエミちゃんは二月十六日高倉健さんと晴れの結婚式をあげました。羽田空港にも、人気者の晴れ姿を一目みようもファンが押しかけ文字通りののみくちや。ハワイ・アメリカえ二週間のハネムーンに出席しました。

4. 北鮮帰還をめぐる

—下関・門司・東京

野崎

二月十三日政府が「北鮮送還」を閣議了解によつて決めたため、帰国の希望を叶えられることになった十一万人の人びとは早くも、帰国グループの結団を行い、準備に大奮闘です。しかしこの決定で怒った韓国の柳公使は、日韓会談を打ち切り、抑留漁夫は帰さないとの強硬態度を表明。現在、釜山には一五三人の漁夫が抑留されていますが、留守家族の代表たちは取り急ぎ上京し、何とか助けて下さいと涙ながらに訴えています。深刻なシヨックをうけた西日本の漁業基地では、李ラインえ向け出漁する漁船は、不安な色につつまれ、海上保安本部では厳重な警戒をつづけていますが、人道を守るための「北鮮送還」は皮肉にも、日本漁夫の安全をおびやかすことになったのです。

241

87

87

172

123